



子戊

歲旦

合歡堂
緝

中村俊定文庫
文庫 18
440





元旦



初哉〜や傾城

沾山

ほろけ優太郎

梅花乃うほろ

莞尔

元旦の髪

髪をいへる

徳とゆひ折る

沾未

日の妻や天の下ふかね乃り歩
かむく産も 夕の初お
花く小音る結里乃啓きく

沾長

麗山

翠羽

今朝掛小睡ま〜月の笑ふゆ
えれもかく 笑す親子草
有す此の暮り小尾と結と見て

萬山改

菜山

可卿

桂竜

四つ目と御草とほくやゆ乃鐘
みあ〜き〜〜〜き〜〜定海
小魚とふ小はき〜〜水乃り

沾貫

沾鴉

此柱

坊う杯の幾代とゆ〜春
若出歌竹も〜やきと東路
を平蕭の意い〜る能養れて

尤桂

社水

夏畦

市代もれや結ふめてたに戸の妻
八志も結外も皆松の〜ち
教様を名年女持も〜花房〜

沾鷺

沾泰

君山

日の妻乃

夕の〜人〜子〜路の〜あゆ〜か
柳身をや〜 風音〜門
妻は而〜居〜清〜紙〜

沾廣

巷遊

字山

手立や筑波のかすし富士丸照
りてく組歌 子美の題
西み本の竹小暮きくし来く
沾 翫 松 康

え日とる紙の初めくや御代の町
ふくく舟乗る夢のよき旅
千大振いつきその和布は素きりん
旭 辨 沾 宇 水 峯 宇

堀の海へ海へや潮し惠方より
そりてヶ月のかしぬぬ舟
一とまの梅と虫院乃志よりふて
和 沾 沾 泉 帆 仙

え日やねとまけの非る海より
我とくもの原いかにの年
投入乃命をてん子に花控く
麗 暉 社 鳥 山

老鷹のよやまや 宿は雲
砌の沈り 亀乃 年歌
炯とまけ 海小し系は控りん
社 沾 菜 水 市 山

波静八十時けく事や来
浦の管をを 旅よ 喰つこ
山独活の香と吸おはれく
菟 沾 曾 示 貫 良

潔く煮てし花乃ちうら
千代もかほし居森の舌抄
辛波も二反と八吟ぬは既ふて

沾 泰
里 既
沾 樂

との実を林の柳もふも玉の真
惠方より乃福とと産
野と産も名もはなと鳴り

夏 畦
翠 羽
沾 卿

富士もきふ産のきぬと名を始
何部も一入福系かん
菌は小産穂の産とあつて

可 卿
沾 鷲
沾 長

世の中はせうかへんや初日
上上吉乃年一志 朝風
うねりうさ産村も産の廻り

桂 竜
沾 山
左 桂

ふもよねと伸産やも川産
むさねも産れ 初合
ふもよねと伸産やも川産

沾 谷
沾 賀
旦 山

美産も産や川も門の産
壬午くりく産と春の産
東風吹きも傘も産と産

字 山
沾 廣
沾 砂

何れも思のりくみやと船の奏
あましく浮ふ船の舟物
まゝをくしゆくか一巻の目巻く
沾禾 万里 蓮如

かき起のほくく吐をその處
夜をあましくくむよき東風
山さくく喉や旅路の時とゆく
沾康 沾楓 沾松

初日さく枝くく笑へ花乃兄
南詔の歌 庭より 雪
お庄の洪り貝と吹く世の中
龜茂 暉山 沾水 旭峯

我朝帰ふる士を語く

蓬萊や不二の裾掛かきくお
仙家の傳を 椒柏り酒
筆の袖松のくくもまのひみ
沾瓠 社雲 沾如

二石の禮義をくくめやうさ清英
先改旦よ君は侍 道
譽とくけあまのさく下も禮よくて
巷遊 社文

やうくもはくぬ御代や鶴旦
戸さくぬ園と越く一層節
元次の鬆と葉をくく足知くまくく
沾十 麥充 富右

山々富士花を搦り江戸の春
をみちも解る氷を溜りみく
社葉
麥人

万両のそとく大たてん花の葉
門のさきも今と世盛
枳本海と門も若解の源みく
莞示
麥舟

東坂の見附やとれたの這入口
一長ゆきとし日と水田う揚
蘇き女花のいさうに夢うけて
此柱
夏畦
沾呂

旧年男子と修るを
祝う

破广弓と傳へるめや家の妻
万葉り来く乳母を正面
とくくと脱ぬきし解をのちみく
沾谷
沾律

物智と歌ふも磨くや玉の葉も始
産後とあきく向く大慶
飯指乃飯々み穀の外みく
沾宇
社麩
沾翰

諸の強城中よまて慈母の
徳をかくるを

先祝へる川日を江戸地初夜
旅若くまきき京の正月
兵よるえりて代名と歌う
旧波
沾禾
仲稼

一番小留士(所)や初日法お
只言山(と)もや解る言
思つ(一)母路の枝折の花(く)小
沾玉羽
沾里

ニ夕と名(言)記しけ(り)川日(う)那
試(羊)風雅(お)り(い)や(る)那
魚(お)り(ぬ)や(小)河(を)濁(る)ん
沾翠羽
沾翅
沾山

多(彩)も(た)け(る)長(家)一(宿)る(身)
赤(く)と(む)ふ(旭)や(か)さ(る)海(を)
新(年)や(古)さ(る)の(小)お(終)武
君山
馬長
鵜委

亀(の)脊(よ)ま(ま)と(身)も(る)松(る)り
仲縁

大(福)や(園)え(身)一(宇)活(の)里
富右
の(と)原(不)二(と)初(日)法(読)う(那)
沾木

盤(菜)の(門)ま(川)糸(や)明(の)身
寿山
天地人(と)も(ま)と(身)乃(美)
社葉

初(と)も(七)袖(神)も(お)立(る)く
芦曉
冷(つ)も(や)面(お)持(の)足(は)ら(い)
且山
蓮如

山崎の巻は御多うけの終りも熟す。
名水や 名も汲りくくもよ
沾 如

包井や けくもえいあひひ
祇洞

子一ツを年法流りや 名物の具
辨水

むく起の眉と宇くや 花乃具
沾 砂

美豆のむたりけくく 福寿草
沾 賀

歳年此齡と 母や 初水
沾 仙

勢いや 勢く 梅の花乃具
社麿

大下馬の人のこもさめ 的のこ
麥人

廿余の巻と近く

梅下と 福系と 敷と 屋中目
山頂

君の代の 扱きくありか
沾 葦

面分のあやや 柳屋の 遠入口
麥仙

あきやのや 是も子合 花乃具
沾 松

新の丁巻 鳴かたりや 日姥を
社鳥

永くと 柳代の 右敷や 明の
玉羽

何とくく 先案ん 日のく
沾 里

家と 佳例 雨くく やふの 春
沾 幹

え日のまは法居りや痔のま

旭町

末唐くまもつてまや 礼麻

沾卿

暖乃りてまもまき 四子地妻

社雲

終年法園と磨く 玉乃其

麥亮

若條や唐取まて 松のうま

以水

えりと名ぶく 妙のま揃ふ

万里

まのまろく 虫たかみのとらわが

社栄

不悪用と津候よゆせ年男

麥舟

君う代のおまはま 二乃新

社文

吉例の眼青之や 二のりさ

沾楓

お子板乃 ちとに 風のむらりバ

沾水

初と終の式や 伊勢流小笠原

沾翰

目もく 二つはらうき 初とや 福喜妙

沾籬

まのまや 板の書白ふ 山うつ

沾呂

まのまの 煮く 一や 福待草

沾律

古々法 神もねまや 宿乃其

曾良

去の先乃春波上川舟車 沾線
 松竹の影をぬる存や門の春 湖竜
 末廣のゆけけけ梅のかげり水 和石
 夷約乃夷子といまむ初春のふ ^女 琴糸
 天地のいよしく和しく之は春 一止
 有うさや我者あつくも初日紅 亘東
 ともくとも立や廣く園乃を紅 孤州
 夏よりともけにとも一室の春 ^女 芙水

歳旦

初紅を初之余情やむ先換 鶴霑
 所夢亦古き奇妙 鶴 沾山
 蓋の水より魚も筆もそくく 鶴洲
 四海春返るる武威の朋好くら 梅下夢
 市宗より小子里り 沾山
 たんりく語きふるに夢もあや 怡川
 室咲をまぐ南へ夢もわ乃春 梅郊
 日しゆらうとまはた所廊下 沾山
 蝶くの陰小字をともや晴らん 沾戸

え日れろろや 祚乃所念よ入 湖東

実者こふに 春の好統 沾山

吉柳のおしハ風を貯へし 石鯨

け春の辰よ 候 居

え意方むくや 四つ谷の 朝朗 沾嶺

所善信既り 永美と契まき 沾山

遊の業と遊くふりてく 沾木

天の戸を戸くや 四方れ伊勢の春 満樹

うふ代多ふき子地 沖初物 沾山

蒼子も鳩と蔚傳は群く 沾志

春約やいつこちあきと下る法 釣 吳夕

かまみよ辰せ所なるの敷 沾山

藤のくか盛と旅もさかりゆく 風導

酒中花小くろも 同者屯の奏 菩莪

所袖川の聖と所笑ひ 沾山

例梅乃ゆきをぬ素と連てあく 不言

改年

大紋小梅のかりや 初日終か 蘭臺

急ゆし茶と先旅ひ月 沾山

新吟吉磁の皿小をり立る 子鷹

隠者くしめてる
まことまへく

豊子よ空小ぬいけく初日法を
家海くりり門乃神柳

乳母のこももや福まて凡中とて

尺よや名終ゆくと用く福壽軒
鳥之ワマワ若さ 元日

布衣系絶ふかおまのや下三其
時乃鼓り年改乃曲

濃く化粧へ花久布子宿の英
辻室川の櫛や并

若水や下まも又まろる所代
戸さぬ岩もぬくいを

曠か命一先許の櫛よ初朝日
其立まへた乾ぬ葉のさう知

月香も是より香あり花の春
風雅く一めハクあとの三つ物

とやくと咲や福壽の花乃春
運と縁とふ開く色井

五雲

遊蝶

浦鶴

徳沾

徳二
沾山

奥會津

青牛

沾山

越長岡

沾瀨

沾山

沾閣

沾山

亀山

沾山

若水小すゝ新さばやまの星
皆新〜〜さ申よ古言
沾山 鶴洲

障子紙〜梅の葉うや初り新
む〜と啼きと人も来ぬ庭
沾山 不並

大福やとけ〜婿き登の鳴
初を生り梅乃丸楯
沾山 廣山

初日新か〜〜湯やいつも川
手〜男いつも老せん
沾山 於 替 吳来

君息のよきあはれさめらる
カ〜〜ナリ

松竹田戸明乃初日結めら〜
五機七乃と末度ま〜
沾山 沾海

浪静原蕨の〜や〜
糸〜〜
沾山 沾和

色も香〜は時より梅乃実
文学の世〜
沾山 肥前佐賀 梅牙

若水や常ハ〜井戸か〜
齒栗の〜
沾山 梅宇

改年の一由終や明うす
沾立
松竹飾る門の帯目
沾山

月日星始始う呼吸あわゆ
社嵐
春はけ草も並ぶる屋
沾山

青陽

友為のお振や習ふも月の初
遊蝶
若物乃自得をえんや手は初
探珠
志袍の光初をいりや松節子
喜時雨
子林の云彦やうさ此福壽軒
雲和
老ううかされと心々花乃夾
風香

又女子の海と深く
女子板も揚るものあり
沾戸

人し初く柔物よ不二の初日か
立帆

中あ初や己午のあいに向ふ夾
武連

若こころうとやふと歩乃松の春
千花

其の日もうとまら事よろうと山
淡月

こつあや車にいと此明の吉
貞之

子代くく花のあやかさう葉
草雪
らつ日初かりぬ門を南うけ
嵐口
白水小のりや上総師代の夾
梅露
我極く思ふてはか一福壽軒
水星
初寒のちの日は福丸神詣
其月

今朝もくく旅の花や福寿草
脱之くくさむよりむれも
車井の音あくく初水
雪乃川の去きやも川日乾
朝々世道顔よりく初富士
大黒の舞込門や今朝も
日此思といてき初んか代の春
黄令の移り流やも川日乾
山さうに去きの音あくく
蓮葉や落しおとの初日乾
あ水も移り笑ふやも初
あといくく世道顔より福寿草

湖船 和星 喜情 祇京 左笠 徳雅 瑠砂 祇洞 祇山 祇鳥 祇圓 始川

但衆出

え日や一富士初代の姫小まつ
先妻乃一床飾りく福寿草
冷つらや君もあも乃初穂丸
挽とのし初代のもくくや玉の英
千里まくくくくはいきみや乃英
門の世よもくくお目くくく初礼志
君ハ富士ニ雪の上あ子花の英
研あくくくくくくくくくく
きあくくくくくくくくくく
雪の所業やむ先乃今秋一
面かか世界のゆきとくくく
え日や又巻くくく玉も初

沾文 秀未 沾蝶 水苔 翠紅 其柳 寿来 百丈 雨夕 雲子 一甫 墨鷹

公よや債とる士りニワ結如
 喰つとや皆をきり乃 乃と立 圖采
 とも水やとやく見舟一落の就 長羽
 じつ門を足上朝日あり松のうり 双羽
 あゝ金乃粒のむらうや松の中 出羽秋田 有中
 居並じく空りと流や家の妻 卷来
 指ゆつゝ家乃りそら 今も妻方をも山山白くま やみ解 岱川
 初夜や 多海晴 も常らさす 圭石
 々朝ゆゝゝ扇と木二乃初日か 呼伴
 喰むの姉とやいそん 福多叶 越長岡 沾玉
 喰摘や 蓬草 山七余ほあゝと 王山
 福いと付果せつゝうされ美 沾芝

冷つゝや子え、福を著法を 沾翠
 少ゝ柳や 庄交 の内乃 沼河 沾湖
 海士人の髪もほやあゝとこれ美 沾峩
 まう子代の名海祝何う門の松 沾尺
 元日と善き 三人行則著我師 友いゝく 全秋の門に入ゆ 之乃朝 沾射
 唐とさや カ いゝや習はむ玉の妻 沾牛
 え朝や カ 柳を鼓の カ ち カ 利 沾旭
 山も カ さ カ 唐の夜 カ ち カ ち カ 先 沾山
 比らや カ 君 カ 小 カ 唐 カ ち カ 朝 カ 日 カ 此 カ 高 巨山
 真 カ 舟 カ や カ 柳 カ 彩 カ 文 カ 乃 カ 松 カ 小 カ 唐 沾舟
 え日や カ 柳 カ 小 カ 和 カ ぬ カ 人 カ 一 カ 河 挂車
 唐 カ 換 カ 少 カ 一 カ ち カ 乃 カ 年 カ と カ 業 カ 小 左前

東風子言もや花を 子代のとて 萬
古池の氷わくくや 夕月日影 沾 諷
何か〜と 志と不足り〜と 此来 沾 朝
幾万里と保みと 懐く門書や 素 行

春興

三つも花や二日天乃初子み 梅郊
解泊の橋ふさ〜と 柳の那 湖東

麗日

冥其のけとて 居る少君解川 琴水
くや三つ〜と 花の死〜と 花 沾 山

夢や花の葉色り 風わくふ 如 椿
用らぬや 川子 人橋 沾 山

能い布子 着るも 着業は 紋ふ 隣 笑
年始と 髪及 田舎 親類 沾 山

全交元は〜と して 通海 挿足 不 立 笑
待たね 舟乃 留るふ 影るふ 沾 山

子と川と〜と なる 古身 何と 影る 沾 流
疎と 怖と 影る 影 さらり 沾 山

若草や ちと 刺し 小と 答と ちか〜 神奈川 輕 舟
障り〜と 詠と 影 乃 春風 沾 山

古人の句とわらひかく

糸物の難波ハ菜ニ把梅のそ好
今とて同じ来乃 切化

馬肝
沾山

子と屯の増とそ菜子む先乃若
形や梅花くそと法 是の江
面小和一日以和一梅の育く
道や今一ちと 菜のまらるる
道芝介 汎や 去の元まとも
梅うや 本やと 宇ゆ 塀乃日
かく斗 濁ぬ 新代小高解川
香も 波あり 水と中よ 此梅の影
麦畑乃う 梅く 足ゆる 菜の那

浦崔
柳波
旭峯
社水
示来
沾瀨
花遊
菜山
子鯨

おろけと喜とぬじやあ著つと
花おう 支風といえぬ 柳う那
そとく 乃客めつと 夜のとふ
本遠の世活ものう 梅のそ那
そと 障あけと ちを む見のもの
下と 音と 満と ゆき花乃 庭う那
め星乃 白い 舞とや 梅のそ那
柳う 柳お 信や ちうり 舟
むめ 嘆や 縫ちと ちる 名の針
傀儡所 江戸もく 菜水 羈旅
投中 脱と 世梅の 綻ひ 娘
待園と 文と ぬまら 梅乃 風

沾泰
夏畦
沾谷
呉来
沾海
沾和
蓮如
梅丸
百蛙
沾康
可郷
暉山

強波津の状もゆくや 梅露
 梅の香や 比ま表をぬく空の風 漢風
 付いしく 雲の口も や 花来
 香ふと吹事花も 風をよ梅の風 其月
 折ふか 一面はく のこも 丘雨
 萩うも 葉をよの 梅花 大雅
 山うも 乃 貫ひ 木子
 香ふや 葉小 木子 沾賀
 東風吹を人のおくも 柳一 申
 一日と 細も 及をぬ 沾鴉
 比白の 扇はくも しまうか 沾里
 七程や ち屋 具 娘の 沾瓠

歳暮

西ふの 香結 葉も や 少の 鶴露
 大年や ちんく ちんく 梅下夢
 松の 夢 林しう ちんく 梅郊
 玄人の ちんく ちんく 湖東

世うも 辰小 能居

ちと 香 四ツ 岩の 市を しみ山 沾嶺
 来まらんや 武 運 長久 木の 林 満樹
 すまや ちんく ちんく や 師 志の 下り 舟 吳夕
 松立く めて ちんく ちんく 沾荻

年尾

ちんく あくも ちんく 吹をらよ 年の 路 海旭

市中おも踊る魚ありて一衣
石川へ入るものもさあけり
石鯨や洲に小舟の境垣
踏破せし舟子の浪れまの灘
ひらけり市商人やけりさ
我れとさう茶場へ入るお
娘とさう廿日嵐もまらや
子鷹

吹き氣減まるとしや酒の池
抱く目ほくつと舟や年れ
紙魚風嫌うとくはまこり
大踏く吹き心たとも會り
平砂
湖十
珠来
秀億

秋津波の古きとや吹くし
一休は真とさうに所由公
札にさあ先の俺やかくさ
手と惜しとたりと徒をその
松賣よその女子はぬらり
雷小と船人志つり手り
揖とりのさハ静かや吹き川
甚多とれ先さの舟とる葉竹
英女身やうハ小舟の跡
在ぬ人のさけし多し
せりし吹の走る社にけ飾松
妹の日や女も又絵吹き
吉門
栖雀
柳尾
留狗
春堂
木者
負喬
為袞
金羅
冬涉
東寓
涉十

こゆ之の歌集より一や一季は若 圃月

登りつとや先小花あふ年の坂 萬立
洞きり居かゝる候の花乃下 牛吞

除歳 貞屋

本評賣の海邊に己も筆の書 貞屋

いてさうは遠くあふあむ手は是 尹督
誰やうのほろ候の較や年の夏 来示
子の葉ふらふされうか人 万英
ちしとこれ捨の秘曲や梅枝 文卿
かくて又一掛くらふ所もうか 寸松

評極の若戸も志く 侍や夫 秀成
きぬのいぬもや如柳や幾くらう 季大

この市おりく人もふふも 長隠
丹誠の骨輝角くむ四極ふか 泰川
いぬも若と所を女や針大工 曲秀
市豊年しは奥山もく廣り 茨條

五玉と六月あり 十二月 沾涼
所をのや法師貞飛く又あせ 眠牛
ひやせしかくのふくは正天定 陽牛
捨人し世を問むるを除夜の梅 五璉

掃くぬ音 初くや来へ一跨き
清きものほいまた此に 禪賣
学よ夕日おす人せし 法真
素外

兼末

きしくと 凍夜の月やわ布新
志道氣とあふの流やさふ浪
年うみの日も満ちやあつとさ
世と 餘要よは 於 師をうさ
奥山の志打えと来よの 本集
けししにまうる氣しかし 為女
芥末や梅をかうん 師をうさ
このうちよけじや不二の 齋庵
如棋
琴水
三肝
亦末
其樹
沾戸
木子
立帆

篇よりとのさし 〇れ候じりろ
今ふハ外よあし 〇か年の江戸
木上候の生まきあつおのくれ
車井の体むとせし 〇の名州川
む比より 〇あつし 〇除秋の長
庭ア川ぬと 〇更し 〇師をう那
〇しとや夕日つやく 〇三寸乃口
年の秋や 〇津樂の君と 〇梅う下
四十六の 〇福島の門や 〇せし言
えしとく 〇暦めとく 〇一様の糸
かさや 〇海老野とく 〇れうの 〇松
万葉の 〇旅よ 〇笑ふや 〇年の言
五面
大雅
淡風
俣我
初冬
梅丸
水星
恭和
湖船
和星
祇京
法雅

天津を電報小舟に送る
 壽の花を吹雪のかきうら那
 磨斗目をく井を扱へるうま
 けくくによきくじんかー心集橋
 齒丸や新し靴よかうりま
 公せよ様よきくく一本想
 昨ましく髪を梳子や手紙書
 ちるみの父やうくく除衣の林
 年の内り万葉をくくうう冷所
 遠く風よらぬ帆をかーまの海
 せしれ淵をうてゆ地のふきん
 花の根よつき望を新年の餅

紙洞 漏砂 祇山 赤石 赤暁 沾襟 雙紅 其柳 子線 西夕 百丈 一甫

林の威乃とて我よ有く係是
 手の園 毒宅とかくそ口車
 君ふくくくくくくくくくく
 されくくくくくくくくくく
 果くくくくくくくくくく

武連 播吾 撫我 石志 英二

晩年

修と暮も今約かかきむ 杵乃者
 来る来とねや橋ふ大二十日
 松あゆまや垣りんかうう年忘
 弱拙や履も旅ふくくくく
 唾くはと涙く海をながす
 衣くくくくくくくくくく

蘭蒼 浦彦 徳沾 徳二 社氣 沾遊

才くく 廣むちあわし 除ぬ乃 鐘
 佐保娘の先有るさ 死に志 宿
 金銀とくか 命をさす 昨走山
 終年や 各事乃 料理くさ
 海より 舟の 渡り年 の 冥
 けし しの 起乃 おまや 居 獲 師
 年の 尾を 解つ 結ひ 川し 志に
 女も 漕く 着 船と 手 持 筆 虹か
 以年 此 事より 馬や あり ち 山
 け 年 や かく けく 河原の 獲 船
 世の 業乃 果ハ 有り 年 の 苦
 云ふ 小も こと 多し 一 乃 市

占 射
 占 牛
 占 山
 占 茶
 占 瓶
 占 花
 占 朝
 長 好
 羽 好
 出 采
 探 珠
 梅 家

富士歌おしよ 小集つと 上く 年 の 書
 夏ま かく や 一入 集る 奥か あり
 南風を 吹 松か さら 志く 山
 田 代り 七 朝の 威と あり 作 走く 山
 七 事 色 不の 小 入 一 四 極の 野
 あり 心 志の 跡 是と 人 也 大 二十 日
 けし け 結 集る 治より 也 所 の 書
 手り され 下 戸 八 集 里く 是 八 日

如 餐
 風 香
 長 村 西
 雲 和
 七 月
 壽 来
 雲 登
 素 行

守 威

いき くる 店 之 起 さん 大 二十 日
 むつ まし や 老 若 じ 志く 手 本 棋
 み 字 じ 書 是 志 年 一 結 貢 館

占 翅
 荒 示
 巖 山

ある夫をばくみせりき此鷹
庵乃春ふ照るこのまや松より
ゆき〜に笑いかうやむえり花
除衣文く乳母の笑ふや産新
松竹とよ代の目高や年の関
少〜結尾やあふ々夫の化交度
掛このまきさ〜年一秋
小ふ〜梅々あふ〜く多此笑
漕〜せ〜核始もよ〜や除衣の海
志つ夢々産むは除衣の八つ結清
能心不〜作志志〜や都も
大〜や地産物〜後との

掛 庵
仲 長
花 費
花 鬱
旭 家
社 水
里 瓶
和 泉
富 右
左 桂
花 木

ゆく越よよ花を病の〜海白
美と産むあせ〜、年一乃母
た〜包まやまぬ〜 右履
花は産を越ま〜ものか所結え
是の教讀か〜わ〜ん厄ら〜い
さ〜り〜花 漸ま〜〜〜〜
そ〜り〜花 種と〜や〜い〜
いの〜も〜路と〜り〜り 大 悔
賑か挿花り〜〜〜〜
さ〜も〜ゆ〜く〜す〜九〜十〜の〜
花 念 系 抱 や 師 志 の 縁 か
ゆ〜く〜あ〜も〜や〜心〜の〜隔〜も〜よ〜り〜花 底

壽 山
可 卿
花 廣
花 森
花 庫
花 香
花 砂
花 谷
花 山
花 遊
花 瓶

万葉や又東ましくとて子此宿
の年や暦問屋乃 人出入
いそぐ一い鼻とあやや年の梅
落とかり其の宮とや年法宮
運うりに長者もけや年法宮
追儼教といつ々時きく
光陰の夫教拾いじとく一法を
あふんよよ子い幾世の 新暦
尾と出ずか人し狸と年の鹿
梅殿子思事仕何けく手書ぬ
と色く小妻と配もやうい奥
存か人ゆぬ年此ゆい長ふ
心ゆく厄とぬあそ 降伏乃 鶴

法宇 宿河 法樂 暁山 且山 瓶水 法十 山頂 法葦 蓬如 法如

うは法心くおけ人あも作をふ
振くくけ 暫も次中や煉拂
望一を隣ハ其と梅の毛と
手れ尾や柳子もた鼓も川をさう
煉餅子二日休じや年の飯
織つめく年此苦法の前やか
年の影や 岩解も法と作を川
幾子代の筆とあせつる葉葉
臨おの申ふも年の鑑より
あ川や法と年とむまい
や一の坂是うう花の山を
ゆ年も日一調子や水車
たれと通かくくもあぬ作を川

法里 法務 法去 玉孫 社鳥 一止 法仙 社麩 麦仙 祇洞 法賢 社文 麦充

煤掃やりの小船とて菽の俵
 港入まじく寝おろしり大崎
 借りのかみ津も相通し大二十日
 保つみやうのく津も結ぬ是候
 大判のお場上りや年法くれ
 樂外々軒たりや年乃重
 降降りる音や越路の年交度
 百壽おく人の際よりし此言
 師をうかき層取中も目よま
 使者ももこ此津のりく師を
 笑はまは隣へゆくや煤乃款
 手ととも斗小師を仕也りり

社 曹
 麦 舟
 了 松
 了 長
 了 籍
 了 良
 了 山
 了 楓
 了 里
 了 水
 了 東

手の市や坂東夢乃立次月
 買人あゝも我とて素む若れ市
 名人とて海へせりや 大二十日
 せしれまも後ろ通せよ千手堂
 足層切ら者も作走の旗置
 海軍法市のたつまや若登橋
 海軍かよ年乃菽の川 後
 茂よりし核牙ハ作走のすこり
 人々核の人軍しよ作走の那

社 葉
 旧 波
 社 柵
 社 流
 社 陸
 社 羽

大尾

市見歩くゆいさくと
 所念やせしれ駒
 沽 山

